

飯山北高等学校校歌

作詞 足立 鉄太郎
作曲 上田 文三郎

甲斐の高嶺に降る雪は融けて溢れて父となり
飛騨の深山に置く露は落ちて集いて母となり
流れ相い合う犀千曲 末は越路に行く水の
勢い猛く嵩増して 四つの郡の中を衝く

早瀬綾どる川舟のはつるはここと飯山に
設けし教えの中にわを踏み分くる身は彼方なる
高社山も此方なる 網切淵も及びなき
高く深かる親の恩 師の御恵を戴きて
共にぞ修むる人の道 互に励む学びの業
朝な夕なに習い得て 国に尽くさん時を待つ

塵の世界は風荒く 浮世の海は波高し
されど鍛えし身の舟に 徳の帆を上げ知恵の舵
取りて進まばその風も その荒波も物ならじ
矢よりも早き三年を いかで空しく過ごされん

緑色濃き高社 山はいよいよ神さびて
立てる姿を写すなる 千曲の川に行く水は
永久に流れて空ひたす 越の海とぞ成りぬなる

応援歌

作詞 不詳
作曲 宮本 典三

高鳴る腕 沸き立つ血潮
鍛えしこの技 世に示すべく
栄えある庭に 今ぞ出立つ
おお我が選手の 意気の高さ
いざ行け行きて あらわせ手並

奮戦力闘 恐れず引かず
栄冠目指して 集える敵を
打ちて碎きて 勝どき挙げん
おお我が選手の 雄々しき様よ
いざ行け行きて 清く戦え

君らの意気に 栄冠得られ
君らの腕に 銀杯輝く
母校の名譽を 抱いてたてる

おお飯高の 熱血男児
いざ行け行きて 帰れよ勝ちて